

IEEE Sendai Section LMAG / Tokyo Section LMAG 共同主催講演会

特別テーマ「人工知能、ビッグデータ処理とその応用」

(協賛：電子情報通信学会東京支部・電子情報通信学会東北支部)

■ 日時：2021年9月25日(土) 13:00~16:30

■ 開催方法：Zoomによるオンライン開催

■ プログラム：

- ・ Sendai LMAG 講演会について 水野 皓司 (Sendai Section LMAG Chair)
今井 元 (Tokyo Section LMAG Chair)

・ 講演1 「神経回路モデルとネオコグニロン」 <60分>

福島 邦彦 氏 (ファジィシステム研究所)

講演要旨：高いパターン認識能力を学習によって獲得することができる手法として、深層学習や deep CNN (深層畳み込み神経回路)が最近注目を集めている。筆者が1979年に発表しネオコグニロンは、そのような deep CNN の源流と言われており、文字認識をはじめとする視覚パターン認識に高い能力を発揮する。ネオコグニロンの歴史は古いですが、現在に至るまで種々の改良が加えられ発展を続けている。そこで、現在広く用いられている deep CNN との相違点に重点を置きながら、最近のネオコグニロンを紹介する。

・ 講演2 「社会に信頼をもたらす富士通の人工知能研究の取り組み」 <60分>

中川 章 氏 (富士通 人工知能研究所)

講演要旨：富士通では、社会に信頼をもたらす、世界を持続可能にするための最も重要な技術の一つとして人工知能の研究開発を行っています。本講演では、富士通の人工知能研究とその社会適用について説明します。

・ 講演3 「医療関連ビッグデータへの人工知能応用に向けた可能性と課題」 <60分>

木下 賢吾 氏 (東北大学大学院情報科学研究科)

講演要旨：ビッグデータというバズワードが医療の世界でも使われるようになって久しいが、実際のデータの利活用は未だ限定的である。これは通常のビッグデータに比して、個人情報としての配慮など、利活用のハードルが高いことや活用に必要な構造化が十分に進んでいないことなど、多くの要因があると思われる。本講演では、これら諸課題を検討しつつ、東北大学で構築が進む大規模ゲノムコホート研究での医療関連ビッグデータ活用の展望を紹介する。

■ 参加申込：以下のサイトよりお申し込みください。参加費は無料です。(定員300名)

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_tdV6feR1SSyPPVOwBZd3Vw

■ 申込期限：2021年9月18日(土) ※但し、定員に達した場合受付を終了します。

■ 問合せ先：太田 直久 (Tokyo Section LMAG Vice-Chair) naohisa[at]kmd.keio.ac.jp

亀山 充隆 (Sendai Section LMAG Vice-Chair) kameyama[at]ecei.tohoku.ac.jp

※メール送信の際は[at]を@に変換してください。